学習システム促進研究センター
『学習システム研究』第 6 号 2017（pp.79-84）

研究者の学びの真正性の活用

－共同研究（第一年次～第三年次）の総括－

池野 範男

本稿は，2014 年から 2016 年の 3 カ年にわたる共同研究の成果を総括したものである。第一年次（2014 年度）は，専門科学者と大学院生＋教育研究者が 1 つのグループになって，専門科学者の指定した論文読解を大学院生が読解し，その論文の内容理解だけではなく，論文の構造と研究者の学びの構造を発見することを目指した。第二年次（2015 年度）は，同一研究者，あるいは，同一領域における 2 つの論文を選択し，2 つの以上の論文を比較考察することで，同一研究者における，あるいは，同一領域における学びの構造の異同，歴史的変化を検討した。第三年次（2016 年度）は，論文や著書を読解し，単元（授業）づくりへ至る教師の活動を即した教材研究における論文読解の構造と単元（授業）づくりへの活用構造の関係を解明した。

これらの研究成果として，次の点を明らかにした。

（1）専門科学者の研究論文には，研究者の学びが表現されている。

（2）研究者の学びは，論文の構成とその内容に示されている。

（3）研究者の学びを取り出すには，論文の構成と内容から，著者＝専門科学者の学びを取り出すことができる。

（4）研究者の学びは，研究領域ごとに，それぞれの構造をもっており，その構造を発見し取り出すことができる。

（5）研究者の学びの構造から授業（単元）づくりへの移行には，①その内容の転用，②内容そのものの構造の転用，③内容構造の基本コンセプトの転用，の 3 タイプがある。

キーワード：読解，教材研究，学びの構造，真正性，転用・活用

Utilization of Authenticity in the Learning of a Researcher:

Summary of the Joint Research (University Years 2014-2016)

Norio Ikeno

This report summarizes the results of the three-years joint research conducted from 2014 to 2016. In the first year (university year 2014), a scientist/scholar specialized in a field, graduate students and education researchers formed a group with the aim of having the graduate students interpret academic papers specified

by the researcher, understand the contents and discover the structure of the paper and the structure of learning of the researcher. In the second year (2015), two academic papers by the same author or in the same field were selected and compared to investigate differences, similarities and historical changes in the structure of learning by the same researcher or in the field. In the third year (2016), academic papers and books were interpreted; and the relationship between the structure of paper interpretation and preparation of teaching units in research of teaching materials that conform with teacher's activities toward preparation of teaching units, was clarified.

As the results of the study, the following points were clarified:

(1) An academic paper of a researcher in a special field expresses learning of researchers.

(2) Learning of a researcher is expressed in the composition and contents of a paper.

(3) In extracting the learning of a researcher, it is possible to extract the learning of the author, who is a scientist/scholar, from the composition and contents of a paper.

(4) Learning of a researcher has a respective structure to each field of research, and it is possible to discover and extract the structure.

(5) There are three types of process for using the structure of learning of a researcher in lesson (teaching unit) preparation: 1) conversion of the contents, 2) conversion of the structure of the contents, and 3) conversion of the basic concept of the content structure.

Keywords: Interpretation, Teaching Materials Research, Structure of Learning, Authenticity, Conversion and Utilization

１．共同研究の目的

本稿は，学習システム促進研究センター（RIDLS）が 2014 年から 2016 年の 3 カ年にわたる共同研究の成果を総括したものである。

学校教育は，教科の授業を中心に進められている。教科の授業においてその本質となるのが，教科の内容である。教師やその志望者にとって，教科の内容というものは専門科学者の研究の成果を論文や著書から学び，そのまま教授することになりやすい。そこには，専門科学者の論文や著書（以下，論文で，代表する）に含まれている専門科学者（あるいは，研究者と呼称する）の研究過程やその構造を学ぶという観点を欠いていることが多い。

そこで本共同研究が着目したのが，教材研究における基盤とする作業としての論文の読解である。すなわち，教師，あるいは教員志望学生による論文の読解の仕方こそ，教員としての力，実力を向上させる鍵の一つとなっていると考えるからである。

本共同研究が目指すところは，教師が教科の学習の基盤となる内容を習得し，その内容を活用して単元や授業を構想し設計する基本的な過程を研究することにある。多くの教師が進める教科の教材研究は，専門科学者が著作した論文の読解を通してなされている。そこで，本共同研究は，教師によって現実になされている論文読解の過程を研究領域別のパタンとして研究することにした。

２．３ヶ年の共同研究

（１）共同研究の研究仮説

本共同研究が論文読解の研究を通して解明しようとする研究仮説は次のものである（池野・福井，2015，p.4）。

○研究仮説

真正な実践（authentic practice）の実行。

①専門科学者にも「学び」がある。

②専門科学者の学びは，研究論文の読解を通して，再生可能である。

③その再生は，

1.論文そのもの読解

2.執筆者の使用する基本概念，理論による読解

3.その学問領域の基本概念，到達理論による読解

の 3 段階として可能である。

④専門科学者の学びの再生が，真正な実践を作り出す。

⑤真正な実践は，専門科学者の学びを学習者の学びに変換することである

これらの研究仮説における中核となるものは⑤であり，専門科学者の学びを学習者の学びに変換することになる。

この⑤の「専門科学者の学びを学習者の学びに変換する」ことをどのようにすれば，明示化することができるのか，また，他者にも自由に使える手立て（パタン）として定式化することができるのか，が問題であった。

（２）３ヶ年の共同研究

このような研究仮説から引き出される研究課題は，専門科学者の学びを学習者の学びに変換すること，そして，この変換を実現する手立てを解明することである。

本共同研究が着目したことは，上記，共同研究の目的に示したように，教材研究の手段として使用される論文読解である。

この論文読解に，3 つの段階を設定した。

第 1 段階として，1 つの論文を読解しその本質を見出すこと，第 2 段階として，複数の論文を読解し複数間にある共通項目としてのその研究領域の学びを発見すること，第 3 段階として，教材研究としての論文読解を通して明らかにした専門科学者の学びを単元や授業づくりの基本過程に活用することである。

これら，3 つの段階を各年度の研究目的に設定した。すなわち，第一年次，2014 年度は，専門科学者と大学院生＋教育研究者が一グル

ープになって，専門科学者の指定した論文読解を大学院生が読解し，その論文の内容理解だけではなく，論文の構造と研究者の学びの構造を発見することを目指した。第二年次，2015 年度は，同一研究者，あるいは，同一領域における 2 つの論文を選択し，2 つの以上の論文を比較考察することで，同一研究者における，あるいは，同一領域における学びの構造の異同，歴史的変化を検討した。第三年次，本 2016 年度は，論文や著書を読解し，授業（単元）づくりへ至る教師の活動を即した教材研究における論文の構造と授業の構造の関係を解明した。

（３）共同研究の成果

各年度の研究成果は次のものであった。

第一年次度では，次の 3 つのことが発見された。

1）読解の 3 段階はどの領域でも有効であること
2）各領域には特有の研究の構成と「学習」があること
3）各領域の論文読解から研究者の「学び」「学習」の過程を引き出すことができること

しかし，価値，記号，知識の 3 つの領域に固有の，また各領域共通のものがあるとはいえない，というのが第一年次度の結論であった。

第二年次度では，研究内容としては 3 つのタイプのものを取り上げて研究を進めた。すなわち，第一は時間的比較研究である。同一研究領域における研究内容の年代的発展を解明するものである。第二は国際的比較研究である。第一の時間的比較を外国事例に求め，日本と他国の研究事例による研究内容の類似と差異を研究するものである。第三は比較研究の教科書への適用研究である。その結果，次の 3 つを明らかにした。

1）時間的な差異をもった２つの著書には，変化，発展，影響があること
2）同じ領域の著書におけるその研究の構造は，類似のものであること
3）教師の教材研究では，著書の読解を通して研究の構造を生成するとともに，複数の著書における構造変化を理解し，単元や授業にどのように利用するのかを決定することが必要であること

複数の論文（著書）読解が各研究領域の固有性に規定されながら，各研究領域で取り扱われるトピック（主題）によって，それぞれの構造が異なるものを取り出すことができること，また，その構造を研究者の「真正な学び」として転用することができることを明らかにした。

第三年次，本年度では，各研究領域において，小・中・高校における教科のある単元を念頭に置いて，教材研究を行うこと際の論文読解を研究対象にすることによって，専門科学者の論文の読解を教材研究の一環に位置づけ，その論文読解を教材研究へ結び付けるために，論文の読解で見出す専門科学者の「真正な学び」を，教材研究において重要な，学習者の「学び」へと変換する過程とその構造を解明した。

これらの研究成果として，次の点を明らかにした。

1）専門科学者の研究論文には，研究者の学びが表現されている。
2）研究者の学びは，論文の構成とその内容に示されている。
3）研究者の学びを取り出すには，論文の構成と内容から，著者＝専門科学者の学びを取り出すことができる。
4）研究者の学びは，研究領域ごとに，それぞれの構造をもっており，その構造を発見し取り出すことができる。

5）研究者の学びの構造から授業（単元）づくりへの移行には，①その内容そのものの転用，②内容構造の転用，③内容に含み持つ研究構造の基本コンセプトの転用，の 3 タイプがある。

以上の成果から,読解の構造,学びの構造,授業づくりの構造に相関関係があるが，その関係には教科観が働いていることも明らかにした。

３．共同研究の総括

以上，2014-2016 年度の 3 ケ年に渡る共同研究の結果，次の点を明らかにした。

1）専門科学者の研究論文には，研究者の学びが表現されている。
2）研究者の学びは，論文の構成とその内容に示されている。
３）研究者の学びを取り出すには，論文の内容と構成から，著者＝専門科学者の学びを取り出すことができる。
4）研究者の学びは，研究領域ごとに，それぞれの構造をもっており，その構造を発見し取り出すことができる。
5）研究者の学びの構造から授業（単元）づくりへの移行には，①その内容そのものの転用，②内容の構造の転用，③内容構造に含み持つ研究の基本コンセプトの転用，の 3 タイプがある。

４．共同研究のまとめ

本共同研究は，「真正な実践」というものを専門科学者の学びにもとめ，それを発見し活用する方法を解明することを目的にしていた。その目的は，教師が進める上での基礎となる，教材研究の基礎的作業に関する確定的な手続きとその過程を明らかにすることであった。教材研究の基礎作業とするものが，どの教科の教師も行う専門科学者の論文読解である。この論文読解の作業を，単元，授業づくりへ至る過程に位置づけ，3 つの段階に分けた。つまり，1 つの論文の読解，複数論文の読解，論文読解の応用である。それを，読解の 3 つの段階に適用し，論文の内容読解，論文の章節構造の読解，論文の研究構造の読解とした。このような 3 つの論文読解を行うと，論文の内容だけではなく，著者の研究の仕方，また研究が目指す学問的社会的方向性を見いだすことができ，研究者個人（あるいは，グループ）の研究の立ち位置，研究の構造，研究の展望を発見することができる。それこそが，研究者の「学び」ではないか，というのが本共同研究の結論である。

謝辞

本共同研究は，学習システム促進研究センター（RIDLS）がそのメンバーとともに，初年度 2014 年度から本年度 2016 年度までの 3 ケ年間に渡り，多くの共同研究者のご協力とご支援を受けて,なすことができたものです。RIDLS のメンバーのほか，とりわけ，下記のみなさまには,多大な援助をいただきました。記して感謝申し上げます。

文学研究科：
富永一登，地村彰之，岡橋秀典，中山富広
教育学研究科：
木下博義，寺垣内政一，小山正孝，富川光，松浦拓也，畠中和生，竹村信治，間瀬茂夫，深澤清治，西原大輔
理学研究科：
水田勉，山本卓
大学院生：
吉岡真梨子，野添生，山田真子，中村大輝，袴田綾斗，上ヶ谷友和，福井駿，大坂遊，渡邉巧，菅尾英代，大野綾香，村井隆人，井浪信吾，柳本大地，守長和人，渡邊勝仁，植田悠未
附属小学校：
沖西啓子，西原美幸

附属中・高等学校
五井千穂，伊藤直哉，宮本英征

参考文献

池野範男・福井駿（2015）「「真正な実践」入門－価値(哲学)領域の読解を事例にして－」『学習システム研究』(2)，pp.1-10。
池野範男(2016)「教師のための「真正な学び」研究入門－教材研究のための論文読解比較研究－」『学習システム研究』(4)，pp.1-12。

著者

池野 範男　広島大学大学院教育学研究科